

令和2年度  
田上町教育に関する事務の  
点検及び評価報告書

令和3年9月  
田上町教育委員会

# 目 次

1. 学校教育環境の整備			
教育方針の計画的な展開	総合評価：A (83.3)		P 1
家庭や地域との連携	総合評価：B (75.0)		P 2
教育環境の整備	総合評価：A (85.0)		P 4
2. 教育内容の充実			
学ぶ意欲と確かな学力の向上	総合評価：A (85.0)		P 7
創意工夫を生かした教育活動の充実	総合評価：B (75.0)		P 8
いじめ、不登校に対応した指導体制	総合評価：B (68.7)		P 10
特別支援教育の充実	総合評価：B (75.0)		P 11
3. 生涯学習の条件整備			
生涯学習推進体制の強化	総合評価：B (62.5)		P 13
指導者・指導体制の充実	総合評価：B (75.0)		P 14
施設整備	総合評価：A (87.5)		P 15
4. 主体的な学習活動の支援			
学習機会の充実	総合評価：B (75.0)		P 17
主体的な活動への支援	総合評価：B (66.6)		P 21
5. 生涯スポーツの推進			
生涯スポーツの普及	総合評価：B (70.0)		P 22
スポーツ施設の整備	総合評価：C (50.0)		P 23
主体的な活動の促進	総合評価：B (75.0)		P 24
6. 芸術・文化の振興			
芸術文化活動の推進	総合評価：B (75.0)		P 26
活動組織、指導者の育成	総合評価：B (75.0)		P 27
7. 文化財と伝統芸能の継承			
文化財の保存・活用	総合評価：C (58.3)		P 28
伝統芸能の継承	総合評価：C (50.0)		P 28

## 評価方法

### 各事業評価の数値化

a = 期待される水準をはるかに上回っている (100)、b = 十分満たしている (75)、  
c = 満たしている (50)、d = あまり満たしていない (25)、e = 満たしていない (0)

各項目の評価基準 A=100~81 B=80~61 C=60~41 D=40~21 E=20 以下

各事業の評価を数値化し、その平均値を上記の評価基準に基づいた総合評価を行った。

(小数点第2位以下切り捨て)

※各事業評価右側の ( ) 内は、前年度の評価を明記しております。

# 1. 学校教育環境の整備

教育方針の計画的な展開

総合評価：A (83.3)

施策のねらい

田上町の教育方針の理解推進を図り、教育方針に沿った学校運営、教育活動を展開する

## (1) 「田上の12か年教育」の理念継承 評価：b (a)

### 【事業の概要】

「田上の12か年教育」の理念と取り組みを園・学校・地域が共有し合って、互いの役割を担いながら田上の子どもの教育にあたる。

### 【成果】

田上の12か年教育の中核であるキャリア教育に係る事項並びに主体的・対話的で深い学びに係る事項について、年中園児から中学3年生までと教職員全員を対象にアンケート調査した。その結果を園・学校に示すとともに、単年度のグランドデザインにして全教職員に配付し、周知した。園・学校がミッションと連携の重点、互いが担い合う役割等を理解し合って、田上の子どもの指導にあたるようにした。

### 【課題・意見】

校長のリーダーシップと説明努力で保護者・地域から学校に関心を一層深めていただき、学校の応援団を増やしていく。

## (2) キャリア教育の推進 評価：b (b)

### 【事業の概要】

田上の子どもの田上で多くの人と関わり、多様な経験を積んでいく活動を通して、「夢に向かう力」、「課題を捉え解決する力」、「自分の良さの可能性を見つけ発揮する力」、「よい人間関係を構築する力」、「田上への愛着心」を育む。

### 【成果】

町内の商工業者やPTA、学校関係者、教育委員会等で組織する「田上町キャリア教育推進協議会」を設置し、幼・小・中学校及び地域、産業界からの参加を得て、一貫したキャリア教育を展開した。

田上小学校は地域に出て田上の良さを体験したり調べたりする「田上学」と「寺子屋授業」、羽生田小学校は身近にあるものから「田上の宝」を探す活動、田上中学校は「田上を知り、田上で学び、田上に返す」をスローガンにした地域学習など、町を学ぶ活動に取り組んだ。学校・保護者・地域が一体となって応援していく取り組みを活性化するとともに、保護者と地域の方々への周知と理解を図ることができた。

### 【課題・意見】

児童生徒は、学校での活動に積極的に取り組んでおり定着してきた。今後も地域において実施される活動に積極的に参加し、多くの人と関わることで田上への愛着心を育む活動に取り組んでほしい。

### (3) 学習指導要領の徹底

評価：a (a)

#### 【事業の概要】

学習指導要領の趣旨を徹底するとともに、その目標を達成できるように幼稚園、小学校、中学校が連携して取り組む体制を構築する。

#### 【成果】

小中学校がプログラミング教育を自校の年間指導計画に位置付けて確実に実践できることを支援したり、タブレット端末やmBot教材（プログラミング教材）の活用に向けた町研修会を開催したりした。「田上町立小中学校教育用タブレット型情報端末に係る管理運用基準」を校長会で協議し、年度始めから円滑な運営ができるようにした。

#### 【課題・意見】

各家庭におけるタブレット端末使用に係る環境調査、使用に伴う保護者の意見等を集約して、学校と保護者に負担の少ない効率的・効果的な活用を検討していく必要がある。

## 家庭や地域との連携

総合評価：B (75.0)

#### 施策のねらい

家庭、地域、学校が連携することにより、町全体で子どもを育む体制を構築するとともに、「開かれた学校」づくりを目指す

### (1) コミュニティ・スクール

評価：b (b)

#### 【事業の概要】

「開かれた学校」から1歩前進し、地域でどのような子どもたちを育てるのか、何を實現していくのかという目標やビジョンを保護者・地域の皆さんと共有し、地域と一体となって子どもたちを育む、「地域とともにある学校」を目指す。

#### 【成果】

平成29年4月1日に小中学校3校で学校運営協議会を設置し、コミュニティ・スクールをスタートした。令和元年度から学校地域コーディネーターを3校に2名配置し、学校と地域が接する機会が増えることで、保護者や地域の理解をより深めることができた。

#### 【課題・意見】

「地域とともにある学校」を目指し、制度の浸透・地域の理解を深めるため、学校、学校運営協議会委員及び学校地域コーディネーターがさらに連携し、町全体で子どもを育む体制の構築に努める。

### (2) アウトメディア・ウィーク事業

評価：a (a)

#### 【事業の概要】

幼稚園年中から中学校3年生まで、園児・児童・生徒が在籍する全家庭を対象に、家庭での子どものメディア接触について、家族で考え、家族でルールを作り、家族で取り組むことを促す。

#### 【成果】

町教研養教部会と連携して、年3回実施した。メディア接触に伴う様々な問題や発達段階に応じた具体的な取組を保護者に周知した。小学校の保護者82%以上、中学校の保護者の70%からアンケートの回答があり、関心は高くなっていると思われる。「家族団

樂の時間ができた」、「大人にも有益である」、「子どもは真剣に取り組んだ」といった肯定的な受け止めが多かった。

【課題・意見】

「家庭でスマホ使用の約束はあるか」に「ない」と回答する割合が、幼児から中学校まで次第に増加する傾向がある。田上の子をネット使用等で加害者にも被害者にもさせない取組が必要である。

(3) 夢ナビカルテ事業

評価：c (b)

【事業の概要】

県教育委員会が推進する「郷土愛を軸としたキャリア教育の推進」を積極的に活用して、田上の児童生徒に「田上への愛着や誇りをもち、未来を切り拓く力」を育てる。

【成果】

総合的な時間を中核にして、町ぐるみで児童生徒が田上で学ぶ活動に取り組み続けている。学校は、児童生徒が多様な人々の生き方を知ったり、様々な職業を体験したりしながら、自分の学習や生活に活用することを大切にしている。一人一人が整理したキャリア・パスポートを小学校から中学校へ、中学校から高等学校に引き継いで指導に活用している。

【課題・意見】

新型コロナウイルス感染症に伴う学校行事の見直しや授業時数確保等の観点から、十分な活動時間の確保が困難だった。学校での活動を家庭での話題にして、児童生徒の振り返りや次の活動への意欲を喚起するといった学校と家庭の連携を大切にしたい。

(4) 田上夏まつり運営サポートスタッフ事業

評価：b (b)

【事業の概要】

小中学生が田上夏まつりに運営サポートスタッフとして参画することで、自己有用感を高めるとともに、地域との多様な関わりをもつ機会を提供する。

【成果】

企画などの準備をしていたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため開催中止とした。

【課題・意見】

近年、先生の声掛けのおかげで募集人数を確保できているのが現状であるため、参加者増が見込めるような活動内容の工夫、検討が必要である。

企画、準備を進めていたが、結果的に中止となった。次年度への期待を込める意味で昨年度と同じ評価とする。

(5) 小中合同あいさつ運動

評価：b (b)

【事業の概要】

小中学生が、合同であいさつ運動を展開する。あいさつを通じて社会性を育む。

【成果】

新型コロナウイルス感染症拡大防止のために、これまで取り組んできた中学校の生徒会役員とボランティアが2小学校を訪問(年1回3日間)し、小中学生と一緒にやって行う校舎前であいさつ運動を中止とした。各校は、のぼり旗であいさつを呼び掛けたり、

代表児童生徒があいさつリーダーになったりして、全校で意欲的にあいさつ運動に取り組んだ。

**【課題・意見】**

コロナ禍に対応して、より安全な形で実施できたことは評価できる。田上町全体の活動にして、園児・児童・生徒・地域があいさつで交流し合う取組に育てていきたい。

**教育環境の整備** **総合評価：A (85.0)**

施策のねらい  
教育環境の整備を行うことで、円滑な学校運営、学びの環境を確保する

(1) スクールバスの運営 評価： a (b)

**【事業の概要】**

通学距離等の理由により、通学が困難な児童生徒の通学時間の短縮・通学時の安全確保を図る。

**【成果】**

小中学校にマイクロバスを各2台配置。田上小学校112人、羽生田小学校68人、田上中学校69人が利用した（マイクロバス利用申請者数）。なお、田上中学校では、バス通学エリアを拡大し生徒の利便性向上に貢献した。登下校の送迎の他、校外学習での移動、公民館事業においても運行した。また、教員の人権研修や町のイベントにも運行を許可し有効利用を図った。

**【課題・意見】**

令和3年度に全バスが14年を経過する予定であり、又、令和3年度からは月々岡特別支援学校への送迎も始まり走行距離が今までより多くなる中で、老朽化による突発的な故障も増え、長期のバスの修繕には、バスを修理工場に預け、町のマイクロバスを借りるケースも発生した。今後、運行に支障がでないよう、計画的な修繕を検討する必要がある。

又、令和3年度末に2名が退任予定だが、令和2年度に1名の募集を行った際には1名の申し込みであり、今後運転手の確保も難しくなると予想され、運行管理や運転手の派遣などの業務を行う業者への委託への移行も考える必要がある。

(2) 児童クラブの運営 評価： b (a)

**【事業の概要】**

小学校1年生から6年生を対象に、希望する児童に放課後保育を実施する。

**【成果】**

開設日数は、田上小学校286日（平日202日、土曜・長期休業84日）、羽生田小学校285日（平日203日、土曜・長期休業82日）。利用者は下表のとおり。

	登録者数	延べ利用者数		
		平日	長期休業・土曜日	計
田上小学校	80人	4,308人	1,030人	5,338人
羽生田小学校	79人	5,264人	1,089人	6,353人
合計	159人	9,572人	2,119人	11,691人

マスク着用や消毒など新型コロナウイルス感染症拡大防止の対策を徹底して行い、クラブの安全な運営を達成した。

**【課題・意見】**

勤務する時間が夕方かつ短時間であること、また、保護者や児童への対応が多様化していることなどから、クラブを統率していくような優秀な人材の確保が難しい。現指導員の資質向上に努めるとともに、今後は、教員や保育士など児童や保護者対応の経験豊富な人材も探していきたい。

(3) 学校給食費補助事業

評価：b (b)

**【事業の概要】**

食味のよい地元産コシヒカリを用いた米飯給食の普及定着と、米消費拡大、給食費の保護者負担の軽減に努める。また、地元農家やJAと協力して地元産食材を中心とした献立を展開する。

**【成果】**

773千円を補助し地元産コシヒカリの米飯給食を提供した。また、地元産の食材を給食に使用できるように納品組合と協力して取り組んだ。

**【課題・意見】**

地元産の食材は、旬の時期をはずれると、生産量や品質等が安定しないことがある。

(4) 学校施設の計画的な改修

評価：a (a)

**【事業の概要】**

学校施設等の維持管理のための適正な管理と計画的な改修を行う。

**【成果】**

構内道路舗装工事（田上小）13,915,000円など修繕を行った。

学校給食棟空調設備設置工事（田上小）14,410,000円、校内情報通信ネットワーク環境整備工事（田上小）9,570,000円、食堂空調設備設置工事（羽生田小）1,785,000円、校内情報通信ネットワーク環境整備工事（羽生田小）9,570,000円、校内情報通信ネットワーク環境整備工事（田上中）11,550,000円などの工事を行った。

**【課題・意見】**

両小学校の食堂空調設備を導入することができた。また3校にGIGAスクール構想に伴う情報通信ネットワーク環境を整備した。各学校とも築30年以上が経過し老朽化が進んでいる。長期的な展望に立ち、適切に維持管理していく必要がある。

(5) 教育教材等の計画的な整備

評価：b (b)

**【事業の成果】**

教育用コンピュータをはじめとした教育教材等を計画的に整備し、教育環境の向上を図る。

**【成果】**

国が進めるGIGAスクール構想に合わせ1人1台端末を整備した。また、田上中学校では、小型ボール盤16,610円、フットサルゴール165,000円などを購入。田上小では振子実験機53,350円、羽生田小でソフトバレー支柱78,650円などの外、両小学校ではプログラミングロボット47,870円をそれぞれ購入した。

**【課題・意見】**

1人1台端末では、学校での使用のほかに、持ち帰りで予習・復習などを行おうとした場合などは、各家庭にインターネット環境に違いがあり、ルール化が難しい。又、今は購入後間もないが、いずれは経年劣化等でまとめて買換えをする時期が来るが、その費用について、国からの補助がなく全額町負担となった場合は大きな金額がかかるので年度更新などの計画を立てておく必要があると考える。



## 2. 教育内容の充実

学ぶ意欲と確かな学力の向上

総合評価：A (85.0)

施策のねらい

- ・ 学力の向上
- ・ 教職員の指導力の向上

### (1) 管理指導主事の配置

評価：a (a)

#### 【事業の概要】

学校運営と学習指導に係る適切な指導助言、就学指導、人事等にあたる。

#### 【成果】

NR T検査結果から、田上町の小中学校の児童生徒の学力は全国平均と同等若しくは全国平均を上回っている。主体的・対話的で深い学びを目指す学習過程や協働的学習の組織等が3校で共有され、授業改善の大切な視点になり始めている。校長が学校経営に活用できる資料の収集と提供にも努めている。「自分の授業改善を自分でつくる」をねらいとする希望者研修への申込数が増加している。事故対応や各種報告、人事案件等では、学校と連絡調整を密にして連携している。田上町の特色ある教育に関心をもち、田上町への異動を希望する教員が2人となった。

#### 【課題・意見】

教職員の働き方改革推進に伴って、多忙化解消と子供に向き合う時間の確保をどう具体化していくかが大きな課題である。

### (2) 園・校長面談

評価：b (b)

#### 【事業の概要】

各園学校の運営方針とグランドデザインに基づいて学校評価、進捗状況を確認し合い、改善すべき事項等を明確にして学校運営を支援する。

#### 【成果】

各園校長と人事や多忙化解消等について各園校の課題とその解決のプロセスを確認し合うだけでなく、幼小中連携に係る改善や学習指導要領への取組状況などについても共有し合えるので有益である。

#### 【課題・意見】

管理職のリーダーシップの育成、カリキュラム・マネジメントといった学習指導要領への対応を強化していく。「田上の12か年教育」との関連付けを図っていく必要がある。

### (3) 田上町教育研究協議会支援

評価：a (a)

#### 【事業の概要】

幼稚園、小中学校の教職員の連携による「田上の12か年教育」の充実に取り組む研修、活動費用等の支援にあたる。

#### 【成果】

一斉研修に「田上の12か年教育」を理解し合う場を設けた。田上町の特色の一つであり、転入職員にも有益である。幼小中が組織として取り組むべき事項並びに一人一人が

努力・創意すべき事項等を理解し合い、教務室の話題にしていく機会にした。

【課題・意見】

毎年、田上町グランドデザインを更新して、一人一人の「選択と集中」事項を示し、効率的で実効性ある「田上の12か年教育」に改善していく。

(4) N R T 検査

評価：b (b)

【事業の概要】

小中学校において、客観性の高いN R T 検査（標準学力検査／集団基準準拠検査）を実施し、学力定着状況並びに同一集団の推移を把握して授業改善に活用する。

【成 果】

小学校1年生から中学校3年生までの実態を把握することができ、その結果を基に各校長と情報を共有し、指導の改善に反映させた。

【課題・意見】

小学校では国語と算数の学力向上に取り組み、その他の教科への関心が希薄になる傾向がある。小中連携で、5段階分布に目を向けた授業改善の推進と「ここまで育てて中学校につなぐ」という意思を大切にしたい。

(5) W e b 検査

評価：b (a)

【事業の概要】

県教育委員会のW e b 配信システムに参加して、単元ごとの定着状況をきめ細かく把握し、授業改善に活用する。

【成 果】

全国学力・学習状況調査の中止に伴って検査回数は少なくなったが、学年別の結果と問題別正答率等を学校別に作成して、各学校に情報提供した。同集団の経年変化を提供して、学校が児童生徒の学力実態に関心を高めることができるようにした。

【課題・意見】

検査結果を学校運営や学習指導の改善につないで、特色ある学習指導に活用できるようにしたい。

創意工夫を生かした教育活動の充実

総合評価：B (75.0)

施策のねらい

- ・ 郷土愛を育む教育活動の展開
- ・ 国際化、情報化に対応した教育の推進
- ・ 創意工夫を生かした教育活動の充実

(1) 総合学習事業

評価：b (b)

【事業の概要】

地域の協力を得ながら、各校の生活科と総合的な学習の時間における町内での多様な

活動を支援する。

**【成 果】**

キャリア教育の充実に伴って、特色ある教育が推進されている。各校の具体的な教育活動を広報紙の発行で、町民の皆さんにお知らせすることができた。学校地域コーディネーターを各校に配置し、学校と地域が円滑に接する機会が増えるように努めた。

**【課題・意見】**

現行の活動を学習指導要領の目標や授業時数とのつながりで全校的に見直して、児童生徒がよりよく課題を解決しながら自己の生き方を考えていくための資質・能力を身に付けていく方策を提案することが課題である。

(2) 学校図書司書の配置

評価：b (b)

**【事業の概要】**

各学校図書館の環境整備、調べ学習支援、読み聞かせなど、児童生徒が図書に触れる機会やつながりを向上させる。

**【成 果】**

各学校に1名の学校図書司書を配置し、毎月約16時間、図書整理や選書作業、児童生徒が本に興味や親しみを感じるような図書館の環境整備に努めた。

**【課題・意見】**

月16時間の配置では業務量が制限されるが、担当の教職員と連携しながら図書環境の向上に取り組んでいく。地域学習センターがオープンしたことから、地域学習センターと各学校図書館との連携体制を整える必要がある。

(3) A L T 配置

評価：b (b)

**【事業の概要】**

外国語活動並びに英語指導を補助し、国際理解の推進と英語教育の推進を図る。

**【成 果】**

町全体で3人のA L Tを幼小中学校に配置し、3歳児から中学校3年生までの子ども達が英語に触れる機会を維持し、英語教育の推進に努めた。

**【課題・意見】**

令和2年度より学習指導要領の変更に伴い、5, 6年生の英語が教科化されたため、A L Tと教職員が連携し、英語教育のさらなる充実に向けた取り組みが必要であるが、現在のA L Tが何時まで現在のように授業を引き受けて貰えるのか、その場合に変わりのA L Tが確保できるか（他自治体では、コロナ禍でALTが日本に入国できないなどもあった様で）が心配である。

(4) 大学連携事業

評価：b (b)

**【事業の概要】**

新潟経営大学、新潟薬科大学、新潟中央短期大学と連携し、各大学の教育資源を町の教育に活用する。

**【成 果】**

新潟経営大学からは大学公開講座や学生ボランティアスタッフ、新潟薬科大学からは

理科支援員、新潟中央短期大学からは幼稚園の学生支援スタッフなど、児童生徒の教育活動の多様な機会に連携することができた。

**【課題・意見】**

基本的に町が教育や体験の機会を提供し、大学が教授や学生を派遣するという形で連携を行っている。理科支援員については、学生の講義と学校の授業が重なることが多く、マッチできないことが多くあった。

**いじめ、不登校に対応した指導体制**

**総合評価：B (68.7)**

**施策のねらい**

- ・ いじめ撲滅の取組
- ・ 人権教育の展開
- ・ 不登校児童生徒の自学級への復帰支援

**(1) いじめ見逃しゼロスクール事業**

**評価：b (b)**

**【事業の概要】**

小中学生が一緒になり「いじめ」について考え、行動することにより、いじめ撲滅、人権教育の推進を図る。

**【成果】**

新型コロナウイルス感染症対策で、小6児童と中1生徒だけの小集会となった。グループ内で小学生の質問に中学生が答えるという形式だったが、中学生は小学生の規範に、小学生は中学生を目標にすることができた。また、よい人間関係づくりについて学ぶことができた。

**【課題・意見】**

保護者や地域の関心を一層高めて、横軸の連携を充実させることが課題である。

**(2) 人権教育、同和教育の推進**

**評価：c (b)**

**【事業の概要】**

町教職員の人権教育への知識や関心を向上させる。

**【成果】**

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、毎年実施している新発田市隣保館への現地研修会、いのち・愛・人権展、全国人権・同和教育研究大会が中止となったものの、各学校における町教職員対象の研修、人権教育協調週間に合わせて人権をテーマにした道徳授業の開催、人権教育・同和教育主任等研修会への参加など、人権・同和教育に関する研修や啓発に努めた。

**【課題・意見】**

新型コロナウイルス感染症の影響により、予定していた研修が開催できなかった。新型コロナウイルス感染者への誹謗・中傷が社会問題化。差別事象を防止するため、人権、同和教育問題への正しい理解を一層推進し、差別の根絶を目指す必要がある。

(3) 訪問相談員配置 評価：b (b)

【事業の概要】

問題を抱える幼児児童生徒やその保護者を対象に、家庭訪問や面談を行い、相談を通して問題の解決を図る。

【成果】

週3日間、訪問相談員を配置し、家庭訪問・面談138回、ケース会議・情報交換等50回を実施。小中学校における不登校、虐待、特別支援など、問題を抱える児童生徒や保護者への相談業務、学校との連携、児童相談所との連携等を行った。

【課題・意見】

近年、不登校傾向の児童・生徒が増えており、本人や家庭が抱える課題が多様化、複雑化している。課題解決に向けては、関係機関との連携、本人のみならず家族への支援などが重要であるとともに、継続した支援が必要であり、不登校を解消するまでには、長い時間を要し、難しい。

(4) 適応指導教室 評価：b (b)

【事業の概要】

不登校等の児童生徒に対し必要な学習・教育支援を行う。

【成果】

指導員1名を配置し、不登校等の児童生徒が通いやすい環境を整備し、学習・教育支援を行った。

【課題・意見】

指導員と教職員が児童生徒の情報を共有し、連携した支援が行えるよう体制を整える必要がある。

特別支援教育の充実

総合評価：B (75.0)

施策のねらい

- ・ 就学相談、教育相談の実施
- ・ 支援員を配置し学習支援、生活支援

(1) 教育支援委員会運営事業 評価：b (b)

【事業の概要】

障害のある子どもたちの障害の状態、教育ニーズ、保護者の意見、医学・心理学等専門的見地からの意見等を踏まえ、その子どもに適した就学先を決定していくため、早期からの教育相談や就学相談を行う。

【成果】

竹の友幼稚園、ルーテル幼稚園、小中学校、教育委員会の担当者を集めた連絡部会を年4回開催している。4歳児から気になる園児の情報交換、行動観察による子ども理解、保護者との個別相談に取り組んだ。また、幼稚園に特別支援コーディネーターを1名配置し、子どもの理解や保護者との相談を行っている。

**【課題・意見】**

共生社会の形成に向けた「インクルーシブ教育」の重要性が叫ばれるなか、適切な就学・配慮が行えるよう、幼稚園、小中学校、教育委員会が連携し、早期からの情報共有と継続的な相談支援体制の充実が課題。特別支援教育や適正な就学についての保護者の理解の促進と啓発、また、通常学級において、特別な支援を必要とする児童生徒への支援体制の充実が必要。

(2) 支援員配置事業

評価：b (b)

**【事業の概要】**

特別な支援を必要とする児童生徒の身辺介助や安全確保、教育支援等を行う。

**【成果】**

田上小学校6人、羽生田小学校4人、田上中学校3人、計13人を配置。一人ひとりの状況に応じた学習支援、生活支援を行った。

**【課題・意見】**

一人ひとりに求められる支援はさらに多様化しており、年々支援を要する児童生徒の割合は増加傾向にある。支援員と教職員が児童生徒の情報を共有し、連携した支援が行えるよう体制を整える必要がある。

### 3. 生涯学習の条件整備

生涯学習推進体制の強化

総合評価：B (62.5)

施策のねらい

- ・ 学習情報の提供
- ・ 生涯学習の体制づくり
- ・ 学習成果を生かせるシステム確立

#### (1) 生涯学習情報の発行事業

評価：b (b)

##### 【事業の概要】

生涯学習事業や各種大会、図書等の情報を掲載した生涯学習情報を発行する。

##### 【成果】

毎月1回、町内全世帯に配布し、生涯学習事業の周知、参加促進を図ることができた。

##### 【課題・意見】

わかりやすく見やすい紙面を心がけた。また、町民からの記事掲載依頼も随時受け付け掲載することで、町民ギャラリーの知名度向上や各団体の情報発信に寄与することができた。

#### (2) ホームページによる情報発信

評価：c (c)

##### 【事業の概要】

生涯学習に係る情報を町のホームページに掲載し情報発信する。

##### 【成果】

ホームページ上に生涯学習情報を毎月の発行日に合わせて掲載した。そのほか、駅伝大会や成人式の開催告知、実施報告を電子媒体で行ったことで、事業の周知、参加促進を図ることができた。

##### 【課題・意見】

ほぼ固定のイベント・行事のみしか、情報を掲載していない。例えば夏休み妙高青少年研修の写真や感想を掲載するなど、これまで以上にホームページを活用し、様々な情報をより広く発信したい。

#### (3) 地区公民館活動補助事業

評価：c (b)

##### 【事業の概要】

地区公民館が行う生涯学習活動を推進するため、その活動に要する経費の一部を補助し、地区の活性化と生涯学習を支援する。

##### 【成果】

16団体に706,000円を補助。子ども会活動事業分では、1団体に7,500円を補助し、生涯学習活動を推進した。

##### 【課題・意見】

新型コロナウイルス感染症の拡大により予定していた事業を実施できなかった地区が多く、申請額に比して実際の交付額が大幅に少額となった。今後も感染拡大の収束が見通せないため、生涯学習地区推進員と連携しコロナ禍にあっても実行できる事業を検討

するよう機会を見て助言する必要があると思われる。

(4) 研修参加による職員の資質向上

評価：b (b)

【事業の概要】

生涯学習事業等の企画立案から運営まで行える職員の育成を図るため、各種研修会に参加する。

【成果】

県社会教育研究大会、県公民館大会、中越社会教育研究集会、中越地区社会体育総合研修会等、社会同和教育市町村巡回研修会等、各種研修会に参加した。

【課題・意見】

できるだけ各種研修会・研究大会等に参加するよう取り組んでいる。その研修会等で得た情報や新たな関係を基に各事業の改善や新たな事業の企画につなげることが重要。今までの繰り返しだけではなく、新たな企画に取り組む機会を創出していきたい。

指導者・指導体制の充実

総合評価：B (75.0)

施策のねらい

- ・ 多様化、高度化する学習要求に対応できる指導体制の確立
- ・ 地域における指導者の発掘と指導者の育成、資質の向上

(1) 生涯学習地区推進員の活用

評価：b (b)

【事業の概要】

各地区に生涯学習推進員を委嘱し、各地区の公民館等を拠点に生涯学習活動への意欲向上、活動援助等を行う。

【成果】

推進員の役割や情報交換など認識を深めるため、推進委員の会議を年2回実施予定だったが、新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から11月の1回のみとした。会議においては、推進員が各地区に持ち帰って実施しやすい内容であることを主眼とし、新潟経営大学より講師を招聘しウォーキング講座を実施した。

【課題・意見】

研修内容について、体験型研修の場合はコロナ禍にあっても実行できる内容であることを念頭に置く必要がある。

(2) 生涯学習ボランティア養成講座

評価：b (b)

【事業の概要】

生涯学習に係るボランティアを育成するため、企画から運営までのスキルアップ講座を行う。

【成果】

生涯学習地区推進員との連携が不可欠であること、講座企画力養成のためには体験が重要であり、座学より実践的な内容の方が効果的であることを踏まえ、生涯学習地区推



進員会議と同時開催とし、11月に新潟経営大学より講師を招聘しウォーキング講座を実施した。

【課題・意見】

広報チラシの内容を再検討するなどし、生涯学習地区推進員のように町から委嘱されている方以外にも、新規の参加者・人材を呼び込める仕掛けを作りたい。

施設整備

総合評価：A (87.5)

施策のねらい

- ・ 学習環境の整備

(1) 田上町交流会館の運営

評価：b (b)

【事業の概要】

老朽化した町公民館の代替施設及びまちづくりの拠点整備として、田上町交流会館、田上町地域学習センターを建設する。

【成果】

令和2年度においては、新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言を受け、約1ヶ月間、閉館を余儀なくされたが18,478人の利用があった。道の駅「たがみ」のオープンもあり、町外の方々からも利用していただいた結果、田上町をPRすることが出来た。

【課題・意見】

田上町公民館で活動していた各団体が概ね交流会館に活動拠点を移すことができた。図書機能が地域学習センター開所に伴い移転したため、子どもや親子の利用が減った。親子や子どもの利用を促すイベント等の開催等が必要である。

(2) 田上町地域学習センターの整備

評価：a (a)

【事業の概要】

田上町交流会館と合わせ、図書館機能を持つ生涯学習及びまちづくりの拠点整備を行うため、原ヶ崎交流センターを改修し地域学習センターを整備する。

【成果】

総事業費3億4,895万2千円をかけ増改築を進めていた田上町地域学習センターが令和2年11月30日に竣工。令和3年2月22日に三条地域振興局長、町議会議員及び施工業者をお招きし、竣工式を挙げる。同年3月5日から3日間、施設見学会を行い、3月8日にオープンした。令和2年度の図書コーナー利用は、貸出冊数1,944冊、貸出人数441人、研修ルーム利用者数158人となった。

〔施設概要〕

所在地	田上町大字吉田新田丁242番地2
構造	増築棟 鉄筋コンクリート造平屋建て 改築棟 鉄骨造2階建て
延床面積	1,665.38㎡
(内訳)	増築棟：350.42㎡ 改修棟：1,314.96㎡

※改修棟のうち図書コーナー等利用部分	572.88㎡
※ 〃 倉庫として利用部分	742.08㎡

【課題・意見】

地域学習センターオープンに合わせて、書架や什器類等の購入、蔵書移動・配架については、予定どおり完了することができた。今後、倉庫部分に収納する予定の埋蔵文化財関連の資料等の移動を行いたい。また、蔵書を増やしていくとともに、地域資料の収集を積極的に行う必要がある。

## 4. 主体的な学習活動の支援

学習機会の充実

総合評価：B (75.0)

施策のねらい

- ・ 各年齢層における学習ニーズに対応した講座、教室の開催
- ・ 多様化する現代的課題に向けた学習機会の提供
- ・ 郷土の理解を深める各種講座、教室の開催

### (1) ゆうゆう教室

評価：b (b)

【事業の概要】

レクリエーション、自然体験、創作活動等を通じ、楽しむことの中から子ども達の自主性や協調性、創造性及び豊かな情操を育む。

【成果】

開催の都度、小学生全員に案内を配布。開催回数6回で延べ124名が参加。親子参加型のプログラムを増やしたり兄弟での参加を促したりすることによって参加者を確保した。スポーツ推進委員のほか中学生のボランティアもスタッフとして事業に巻き込むことができ、より幅広い年齢層の交流を行うことができた。

【課題・意見】

昨年同様高学年の参加者が少ない傾向にあり、今後の参加者を確保するためにも高学年を呼び込めるよう内容の検討が必要。そのほか、新潟経営大学や新潟薬科大学、新潟中央短期大学などとの連携事業についても内容を協議し開催していきたい。

### (2) 夏休み妙高青少年研修

評価：c (b)

【事業の概要】

自然体験や集団体験を通して生きる力を育むとともに、地域活動等でリーダーとして活動できる青少年の育成を図る。

【成果】

本年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点より事業を中止した。

【課題・意見】

次年度は新型コロナウイルス感染症の拡大動向に留意しつつ、可能な限り開催したい。

### (3) 子ども夏休み教室

評価：b (b)

【事業の概要】

遊びや伝統文化、生活、自然の中での体験により、心身の健やかな成長をもたらす学習機会を提供する。

【成果】

4つのプログラムを計画・実施し、総計163名が参加した。プログラムの内容及び参加者の内訳は下表のとおり。

プログラム名	参加者
①学習室の開放	45名
②かおりのせっけん作り	26名
③交流会館夏祭り	45名
④ニジマスのつかみ取り	47名
合 計	163名

**【課題・意見】**

上記4プログラムの実施にあたり事前に綿密な準備・打ち合わせを行ったことで、スムーズな進行、運営ができた。

(4) 大人のためのゼミナール

評価：b (b)

**【事業の概要】**

主に成人向けの各種教室（講座）を開催し、青年、壮年層の生涯学習参加へのきっかけづくりとする。また、生涯学習指導者の発掘の場とする。

**【成 果】**

4つのプログラムを計画・実施し、合計39名が参加した。プログラムの内容及び参加者の内訳は下表のとおり。

プログラム名	参加者
アロマのハンドクリーム&化粧水づくり教室（平日開催）	8名
〃（土曜日開催）	6名
クリスマスリースづくり教室	11名
おうちカフェ“花より団子”（団子づくり教室）	14名
合 計	39名

**【課題・意見】**

新型コロナウイルス感染症対策により教室を中止したり、参加者が減少するなどの影響があった。中止となった講座については次年度以降に実施する予定したい。

(5) 生涯学習行政出前講座

評価：c (c)

**【事業の概要】**

町が重点的に取り組んでいる施策や暮らしに身近なテーマなどを用意し、職員が出向き直接町民に説明、意見交換することにより、町政への関心を深めるとともに、生涯学習意識の啓発と行政の活性化を図る。

**【成 果】**

中学生を対象に「町のしごと」について出前講座を1回開催した。

**【課題・意見】**

今後も事業を継続していくとともに、より認知度を上げるべく町民への周知を行っていく。

(6) ストレッチ教室

評価：a (a)

【事業の概要】

家庭でも気軽にできる体操を通して、日常生活に運動を取り入れ、健康増進、体力向上を図る。

【成果】

新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点より4月～6月は事業を中止したため、開催回数は18回と昨年度より少なかったが、参加者は延べ680名と昨年比96人の大幅増となった。会場が交流会館多目的ホールに移ったことで会場のキャパシティが増加したことのほか、三條新聞に当事業の記事が掲載され知名度が向上したことも要因の一つと考えられる。一番多い3月は2回合計で96名の参加があった。当事業は健康づくり教室として定着している。

【課題・意見】

参加者より「自粛期間中に体力が低下した」との声があったため、感染症拡大防止に努めながら可能な限り継続して実施し、町民の健康づくりを支援する。

(7) 早朝ハイキング

評価：a (a)

【事業の概要】

朝の清々しい空気を吸いながら護摩堂山を登り、頂上でラジオ体操を行うなど交流を深める。納会では皆勤賞、精勤賞を表彰する。

【成果】

新型コロナウイルス感染症により4月、5月の2回分を中止した関係で、7回の予定が5回の実施となり、延べ130人が参加。11月には納会を開催し、皆勤賞19人、精勤賞4人を表彰した。

【課題・意見】

11月の納会については、田上町交流会館の多目的ホールで実施した。今後も継続し、町民の健康づくりを支援する。護摩堂山への登山者が多いにもかかわらず新規参加者が少ないのは各自のライフスタイルによって自由に登山する傾向となっている。今後も引き続き、新規の参加者を呼び掛けていく必要がある。

(8) 囲碁将棋大会

評価：b (b)

【事業の概要】

囲碁将棋を通じ参加者同士の交流、親睦を深める。

【成果】

新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策により田上町交流会館の多目的ホールを使用し、高齢者も多いことから昨年同様に、テーブルと椅子による対戦とした。囲碁の部は17人、将棋の部は11人、計28人（前年度比：1人減）が参加した。

【課題・意見】

囲碁、将棋の普及、町民のコミュニケーションの場として機能している。今後も継続していきたい。また、引き続き若い人からの参加を呼び掛ける必要がある。

(9) ふるさと歴史講座

評価：a (b)

【事業の概要】

田上町、その他の歴史と文化について学習し、郷土意識を高める。

【成果】

「道を歩こう！～街道学のすゝめ～」と題して14人が受講した。田上町内を通る三国街道について古代から近世に渡り行屋崎遺跡や護摩堂城、清河八郎と田上の湯など歴史的な背景も併せて解説し、受講者からはとても良かったと好評だった。

【課題・意見】

今後も参加者のニーズをとらえての講座開設に努めるとともに、田上町の歴史などについて深く掘り下げ興味深く質の良い講座を提供できるようにしたい。

(10) 人権講座

評価：c (c)

【事業の概要】

町民の差別問題を始めとする人権問題に対する正しい理解と認識を深め、人権感覚の育成を図る。

【成果】

コロナを切り口とした町教育委員会主催の人権講座開催に向け準備を行ったが、講師の都合がつかず開催する事が出来なかった。保健福祉課と連携し、新型コロナウイルス感染症への偏見、差別について周知を行った。

【課題・意見】

新型コロナウイルスの感染による恐怖から感染者への差別を払拭する事は難しいが、差別をなくすために関係機関と連携し差別根絶に向けた取り組みを行う必要がある。

(11) 家庭教育セミナー

評価：b (b)

【事業の概要】

子どもの心理や心身の成長に伴う親の役割、関わり等について学ぶ機会を提供し、家庭での教育力の向上を図るとともに、家庭教育の重要性について認識を深める。

【成果】

親子クッキングについて、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から人数を制限した結果、参加者が親子3組6名と少なくなったが、事業の中で家庭教育支援ガイドブックの資料を配布し、「家庭教育について今できること」を伝えることができた。そのほか、子育て支援センター及び図書コーナー司書と連携し「絵本で子育て」「絵本ライブ」を実施した。

【課題・意見】

絵本ライブは小学校低学年までを対象とし、土曜日開催ということもあって14組36名と多くの親子連れが参加した。次年度は田上町地域学習センターの活用も検討。

## 施策のねらい

- ・ 指導者の養成
- ・ 自主的なグループ活動の支援

## (1) 体験活動支援センター

評価：c (c)

## 【事業の概要】

地区やPTA、個人の生涯学習活動及び体験活動を支援するため、情報の収集と提供を行う。

## 【成果】

地区行事、学校行事など計7件の相談があった。

## 【課題・意見】

相談者が毎年同じ地区やPTA関係者であり、全体の受付件数も多いとはいえない。町民への周知が不足していると思われるため、生涯学習情報にPR記事を掲載するなどして知名度を高める必要がある。そのほか、様々な相談に対応できるよう「貸出用品リスト」の作成、学校や地域コーディネーターとのより強固な連携など積極的に活用してもらえる体制を整えていきたい。

## (2) 各種サークル活動の育成

評価：b (b)

## 【事業の概要】

公民館・交流会館等で活動するサークルの相談や情報発信などの支援を行う。

## 【成果】

生涯学習情報を活用し、参加者募集やサークル開催日等の情報発信を行うとともに、サークルからの相談に応じた。

## 【課題・意見】

引き続き、次代を担う若い方からも自主サークルなどの結成を促さなければならない。

## (3) 成人式

評価：b (b)

## 【事業の概要】

新成人を祝うと同時に、大人としての自覚を高めてもらう。

## 【成果】

新成人による実行委員会を組織したことで、普段町事業と関わりの少ない青年層が主体的になって活動が出来た。町当局と連携しPCR検査助成や感染予防を図るため、配置等の工夫を行い、感染者を出すことなく開催をすることが出来た。

## 【課題・意見】

出席率が対象者全体の半強程度(58%)の出席状況であった。引き続き、より多くの新成人から出席してもらえるような計画を実行委員と意見を交わしながら立てていきたい。

## 5. 生涯スポーツの推進

### 生涯スポーツの普及

総合評価：B (70.0)

#### 施策のねらい

- ・ 誰もが気軽に楽しめるような体制づくり並びにニュースポーツの普及
- ・ スポーツの正しい知識や技術、マナー習得ができる各種教室の開催
- ・ スポーツ振興を促進するための指導者の育成、研修会等の実施

#### (1) 田上町スポーツ協会との連携と支援 評価：b (b)

##### 【事業の概要】

体育協会、スポーツ少年団、スポーツクラブが合併し結成された田上町スポーツ協会と連携し、生涯スポーツの普及を図る。

##### 【成果】

各種大会の委託について、導入から5年目を迎えた。新型コロナウイルス感染症が広がる中、感染症対策を行い各種大会運営や大会に代わる事業を開催した。スポーツ協会と各競技団体の連携を取りながら、各種大会を実行することができた。

##### 【課題・意見】

スポーツ協会における財源不足や人材確保などの課題が残っている。今後も継続して支援を行うとともに、相談の場を設けるなど連携体制を強化していく必要がある。

#### (2) 佐藤杯争奪町内駅伝競走大会 評価：b (b)

##### 【事業の概要】

青少年のスポーツ振興を図るため、郷土の生んだマラソン界の権威である佐藤秀三郎氏より優勝杯が贈られた。その争奪戦として、並びに町内の青少年の体力・精神力の向上を目的に開催する。

##### 【成果】

新型コロナウイルス感染症が広がる中、「町内の部」、「女子の部」の2部門で開催した。当日は計12チームがエントリーし、町スポーツ協会関係者やスポーツ推進委員からも協力を得ながら円滑に大会を開催することができた。

##### 【課題・意見】

道の駅「たがみ」のオープン1週間後の開催だったため役場前道路が道の駅「たがみ」に来る車で渋滞し、走路を十分に確保出来なかった。例年、従事役員数の確保に苦しんでいる。近年は田上町陸上競技協会の紹介で専門知識を持った競技役員を多く派遣していただいているが、町内の有志や大学連携事業を活用する等、広くボランティアを募っていききたい。

#### (3) 田上町スキー教室 評価：c (c)

##### 【事業の概要】

スキー技術の習得・向上とともに、スキーの楽しさや冬山の自然体験を通じて、町民相互の交流を促進する。



**【成 果】**

新型コロナウイルス感染症の影響により、日帰りでの開催等をスキー協会と協議したが、感染拡大防止の観点からやむを得ず中止した。

**【課題・意見】**

スノーボード人気の高まりから、例年当事業にスノーボードでの参加を希望する方がいるが、現体制では指導者がいないためあくまでスキーでの参加をお願いしている。

(4) スポーツ推進委員主導による生涯スポーツの普及 評価：b (b)

**【事業の概要】**

スポーツ振興を促進するための指導者育成、研修会等を実施する。

**【成 果】**

4つの体育行事（ソフトボール大会、佐藤杯駅伝、ゆうゆう教室、わいわいスポーツ体験教室）の計画・運営を行った。新規の行事である「わいわいスポーツ体験教室」は研修会で学んだ知識を活かして企画・開催することができ、参加者からも好評だった。

**【課題・意見】**

スポーツ推進委員が主体となって町内でのスポーツ振興に関わっていけるよう、研修会への参加、機会の提供を行っていききたい。

(5) 健康寿命・体力増進のためのトレーニング教室 評価：b (新)

**【事業の概要】**

運動習慣定着のきっかけと健康増進の一助となることを目指す。

**【成 果】**

講師に新潟経営大学の安田 翼先生をお招きし、田上町在住の18歳以上の方を対象とした筋力トレーニング教室を開催。講師前期7回、後期6回開催し、延べ149人が参加した。

**【課題・意見】**

町体のトレーニングルームを活用したトレーニング教室を行ってほしいという町民からの要望から計画、実施。健康寿命を意識してトレーニングしたいという一定のニーズがあることが分かった。

**スポーツ施設の整備**

**総合評価：C (50.0)**

施策のねらい

- ・ 各種体育施設の整備充実
- ・ 学校体育施設の有効活用、管理運営体制の確立

(1) 体育施設の維持管理 評価：d (c)

**【事業の概要】**

各体育施設の適正な維持管理を行う。

**【成 果】**

町民体育館のフロアランプ取替修繕 (172,700円)、屋根ケラバ修繕 (170,500円)、羽

生田野球場受水槽ボールタップ取替修繕（143,000 円）をはじめ、各施設の維持管理に努めた。

【課題・意見】

施設の老朽化に伴い、日常的な点検や計画的な修繕、管理を行う必要がある。

(2) 学校開放事業

評価：b (b)

【事業の概要】

夜間、休日等に社会体育施設の補完施設として、小中学校の体育施設を一般団体へ貸し出すことで生涯学習、スポーツの推進を図る。

【成果】

小中学校の体育館、中学校の武道場について学校開放を行った。申請が被った際は団体間で調整して利用していた。

施設名	利用団体数	利用者数
田上中体育館	180 (△180) 団体	2,390 (△3,690) 人
〃 武道場	129 (△36) 団体	1,186 (△1,327) 人
田上小体育館	572 (△5) 団体	9,053 (+639) 人
羽生田小体育館	176 (△55) 団体	4,277 (+970) 人
合計	1,057 (△276) 団体	16,906 (△3,408) 人

【課題・意見】

新型コロナウイルス感染症の影響により利用は基本的に減少しているが、田上小学校及び羽生田小学校の体育館では、団体の加入者数が増加したため、利用者数が増加している。

今後、利用団体が増加した場合、抽選等を検討する必要がある。また、施設の破損報告が数件あったため、利用団体には継続して注意を呼び掛けていきたい。

主体的な活動の促進

総合評価：B (75.0)

施策のねらい

- ・ 田上町スポーツ協会を中心とした各団体の育成強化と競技力向上
- ・ 生涯を通じた豊かなスポーツライフの実現及び多様なニーズへの対応
- ・ スポーツに対する認識の高揚

(1) 全国大会出場者への褒賞制度

評価：b (b)

【事業の概要】

スポーツ・文化を通じて、町の代表若しくは団体の代表として各種競技会に参加、または審査会、発表会等で優秀な成績を収めた町民を褒賞する。

【成果】

全国規模の競技大会、コンクールに出場した町民延べ8人に、80,000 円を授与した。新型コロナウイルス感染症の影響により大会等が中止されたことなどから、全国大会の出場者が大幅に減少した（前年度比：△37人）。

**【課題・意見】**

制度の周知に努め、申請漏れを防いでいく必要がある。

(2) 田上町スポーツ協会との連携と支援

評価：b (b)

**【事業の概要】**

体育協会、スポーツ少年団、スポーツクラブが合併し結成された田上町スポーツ協会と連携し、生涯スポーツの普及を図る。

**【成 果】**

各種大会の委託について、導入から5年目を迎えた。新型コロナウイルス感染症が広がる中、感染症対策を行い各種大会運営や大会に代わる事業を開催した。スポーツ協会と各競技団体の連携を取りながら、各種大会を実行することができた。

s **【課題・意見】**

スポーツ協会における財源不足や人材確保などの課題が残っている。今後も継続して支援を行うとともに、相談の場を設けるなど連携体制を強化していく必要がある。

## 6. 芸術・文化の振興

### 芸術文化活動の推進

総合評価：B (75.0)

#### 施策のねらい

- ・ 各種団体などに日頃の活動成果を発表する機会の提供
- ・ 優れた芸術文化を鑑賞する機会の提供
- ・ 各種開催情報の提供、活動への参加促進

#### (1) 文化祭の開催

評価：b (b)

##### 【事業の概要】

美術及び芸能を愛好する町民の創作を発表する場であると同時に、日常生活の中で芸術文化に親しむ心を養う。

##### 【成果】

新型コロナウイルス感染症対策を行いながらの開催となり、展示の部については、個人・団体併せて27、作品数は約160点以上の出展数となり、芸能の部では、出演団体12団体(98人)、12プログラムを行いました。開催期間2日間で1,344人の来場者となりました。

##### 【課題・意見】

感染症対策のため展示の部と芸能の部との動線を分け、受付を1箇所にして開催したところ展示スペースが減少した。また、昨年での課題であった車イスでの来館者がスムーズに観覧できるように工夫したことは良かったが、3階の展示部分では照明設備が暗く作品がよく見えないなど検討する必要がある。

#### (2) ロビーコンサート等の音楽振興

評価：b (b)

##### 【事業の概要】

発表の機会をつくるとともに、芸術文化を鑑賞する機会を提供する。

##### 【成果】

「交流会館コンサート」として3回開催した。ゴスペル(2回)や大正琴(1回)と幅広い内容で開催する事が出来た。また道の駅「たがみ」と連携し、ゴスペルコンサートの際に道の駅雁木にクリスマスリースやイルミネーションを飾り、コンサートを盛り上げた。(出演者数延べ19人、参加者約160名)

##### 【課題・意見】

交流会館多目的ホールのピアノだけではなく、中ホールやホワイエのピアノ等の活用や、道の駅「たがみ」テント下での野外コンサートなども検討していきたい。

## 施策のねらい

- ・ 文化協会など各種団体との連携、協力体制の強化
- ・ 各種団体などの活動促進

## (1) 芸術、文化に関する指導者、活動組織の育成 評価：b (b)

## 【事業の概要】

公民館・交流会館等で活動するサークルの相談や情報発信などの支援を行う。

## 【成果】

生涯学習情報を活用し、参加者募集やサークル開催日等の情報発信を行うとともに、サークルからの相談に応じた。

## 【課題・意見】

引き続き、次代を担う若い方からも自主サークルなどの結成を促さなければならない。

## (2) 文化協会への支援 評価：b (a)

## 【事業の概要】

文化協会との連携、協力体制の強化。

## 【成果】

文化協会の活動費の一部 230,000 円を補助した。また、町文化祭を連携して田上町交流会館で実施した。

## 【課題・意見】

新型コロナウイルス感染症のまん延に伴い、各団体の活動が制限される中、比較的文化協会加盟団体数は26団体と昨年同様となっている。また、加盟登録者の高齢化も顕著になり、引き続き新規サークルの結成や支援をしていく必要がある。

## 7. 文化財と伝統芸能の継承

### 文化財の保存・活用

総合評価：C (58.3)

#### 施策のねらい

- ・ 文化財や埋蔵文化財などの文化的遺産の啓発
- ・ 指定文化財所有者の協力による保存

#### (1) 指定文化財の管理助成

評価：c (b)

##### 【事業の概要】

指定文化財所有者の保存に対して、その費用の一部を助成する。

##### 【成果】

国指定文化財：1件 10,000円

県指定文化財：1件 10,000円

町指定文化財：4件 20,000円

名木管理助成：7件 35,000円

##### 【課題・意見】

各管理者が文化財の管理を安定して行えるよう、引き続き助成を行っていく。

#### (2) 文化財の一般公開

評価：c (c)

##### 【事業の概要】

文化財や埋蔵文化財などの文化的遺産の啓発。

##### 【成果】

民俗資料館での常設展示のほか、行屋崎遺跡出土品を役場ロビーに展示した。

##### 【課題・意見】

民俗資料館については、連絡先が交流会館に移ったことから、鍵を開ける時間がかかり、観覧者が待つこととなり不便をかけることとなった。行屋崎遺跡の出土品展示が古くなり、リニューアルする必要がある。

#### (3) 埋蔵文化財試掘調査

評価：b (新)

##### 【事業の概要】

県営ほ場整備事業に伴い新津郷田上地区の試掘調査を行った。

##### 【成果】

調査面積約 396,000 m<sup>2</sup> (トレンチ数：160箇所) の試掘を実施。土師器 184点、須恵器 8点、陶器 2点等が出土したことにより、行屋崎遺跡が広範囲に広がっていることが確認された。

##### 【課題・意見】

新津郷田上地区の試掘調査は終了。ほ場整備事業の設計完了後、本調査の必要性を検討する必要がある。

施策のねらい

- ・ 各種保存団体との連携による伝統芸能の発表の場、PR活動の促進、後継者の育成支援

(1) 伝統芸能の保存のための支援と公開 評価：c (c)

【事業の概要】

各種保存団体との連携による伝統芸能の発表の場の確保や後継者の育成支援を行う。

【成果】

田上甚句太鼓保存会による小学校でのクラブ活動指導など、学校と甚句保存会が連携した取り組みを行った。

【課題・意見】

甚句太鼓保存会については一定の支援・連携が行えているが、五社神社や川前地区の神楽舞とは十分な連携が取れていない。今後、各団体と情報交換を行い、多くの人に知っていただく機会について検討する。

(2) 小学校での伝統文化継承 評価：c (c)

【事業の概要】

伝統芸能の伝承のため小学校と連携した伝承活動を展開する。

【成果】

田上甚句については、小学校でのクラブ活動指導、運動会前の講習会、小学生の発表支援を行った。

【課題・意見】

甚句太鼓保存会については一定の支援・連携が行えているが、五社神社や川前地区の神楽舞とは十分な連携が取れていない。今後、文化協会など各団体と情報交換を行っていききたい。